

柏市町会等活動講座 2023 実施報告

- 開催日時：2023年9月26日(火) 10:00-12:00
- 開催場所：ラコルタ柏 多目的研修室 1.2
- 参加者：町会長等14名、発表者1名、協働会10名、市職員(Co含め)9名
計34名
- テーマ：町会等とボランティア団体との連携

1. 挨拶：吉田課長

地域の魅力を活かし、様々な団体が繋がることで、地域活性化に役立てて欲しい。

2. 講義

1) これからの町会等活動の在り方：秋元会長

- ①町会等活動の最大の課題は担い手不足、未加入者増。理由は、町会等が地域の様々な活動を全部担っているから忙しく負担が大きいことにある。
- ②町会等活動の一部を、町会等から独立した組織や専任の組織に任せることを提案
- ③その結果、直接運営する活動が減り、負担も減る。また町会等外のボランティア組織を通じて近隣町会とも活動の輪が広がるのが期待できる。

2) 布施新町町会と布施新町いきいきネットワークの連携：山内相談役

- ①人口が減少し高齢化が進む地域において、当会は布施新町町会との連携を模索しながら活動している。
- ②記名式住民アンケート結果より、活動内容を定め、回覧やポスティングで会員を募集しまた補助金を活用しながら活動している。
- ③町会等との話し合いを大切にしており、各専門委員会とも連携を取っている。また当会のグループ同志の意見交換も大切である。(活動の詳細は説明資料を参照)

3. 質疑応答

1) 町会として担い手不足は改善されたのか？

- 実際には改善されていない。当会の会員は65歳以上が多く、高齢化している。町会等が子どもへのアプローチや週末の行事開催などで現役世代が参加し易い環境を揃えることが大事。

2) 班長も負担が大きく、班長をやりたいくないと言われているがどうか？

- ICT化と言われ勉強会を開催するも出席してくれない。
- 事情は同じであり、布施新町町会では支部長がたいへん。班長の役割でたいへんと言われているのは、回覧と集金。ICT活用を推進し負担軽減を進めてはどうか？(協働会)

3) 学校との連携は？

- 子どもを見守る会があるがコロナで中断していた。これから再出発する予定。校長の熱心さで活動が左右される。町会としての連携はこれから。

4. グループ討議概要

1) Aグループ(世帯数：1000 世帯以上)

①あなたの町会では連携している団体がありますか？

世帯数の多い町会等は、すでに複数の協力団体と連携して運営している。各町会で特徴がある。しかしその協力団体も町会等と同様に高齢化が進んでいる。その一方、若い役員の登用や子ども向けイベントに積極的に取り組んでいる。

- ・松ヶ崎町会は、古い歴史がある地域で、氏子、消防団、婦人会の協力組織がある。他に約 10 団体の支え合いや大堀川の環境整備、福祉団体がある。しかし一人の人が複数団体に重複して関係しているのが実情。全体的には 50~60 名で行事を進めている。
- ・明原町会は、(森林の)里親、歩こう会、敬老会、サロン、マージャンやゴルフの会があるが、集まるのは高齢者だけである。今年度から会長副会長が新体制となり、子ども中心のイベントを開催。従来の 2 日間踊りの祭りは厳しいので、今年 1 日目は神輿や花火大会、2 日目は櫓をたてて踊りを行っている。
- ・西原第四町会は、元町会役員が長く継続したこともあり、若い人の育成が出来ていなかったが、今年度から新会長は若返り土日中心の活動に移行している。高齢者も仕事をしており、仕事をしていない人はいない。協力団体の話は出なかった。
- ・布施新町町会は、約 15 団体の協力(ボランティア)団体があり、町会はインフラを整備し、ソフト(行事や事業)は協力団体をお願いしている。三世代交流会を行い、子ども主体のイベントを行うことで 120 名の人が集まってくれ、若い世帯の参加もたくさんあった。防災活動を通じ、学校や防災活動団体(すくいねネットワーク)と連携し情報交換を行っており良い成果(若い世帯の参加)が出てきている。

②これから連携するならばどのような活動団体を対象としますか？

すでに多くの協力団体があるので、これからは若い世帯を対象とし子ども向けの行事を行うことで町会加入や活性化を進めたいと考えている。子ども向けや若い世帯向けのイベントを担う協力団体が求められていくと感じた。

- ・松ヶ崎町会は、既存の協力団体は協力的であり、次世代のメンバーがいないものの地縁団体としてちゃんと活動している。消防団はもっと活動を知ってもらった方が良いとも思う。
- ・明原町会は、マンションが多く、戸建てでも空き家が目立ってきており、ボランティアとしてどのように関わってもらおうか悩む。
- ・西原第四町会は、加入率は高いが表札を出していない人もいる。しかしお祭りを役員負担を軽減しキッチンカーを呼ぶ等の工夫をし開催したところ大勢の人が来てくれた。子どもが来れば父母も来るので、その場で町会に誘っている。これからは学校との連携も必要と考えている。

③連携にあたってどのような点が気になりますでしょうか？

協力(ボランティア)団体へ入る事への抵抗感や町会等の仕事が多過ぎて、他団体との連携を検討する時間すら無いのが実態である。

- ・協力団体は、決まって時に決まった事をやることは抵抗があり、あまり周囲に縛られたくないと思っているのでは？

- ・地域でのネットワークを持っている女性役員の登用も必要である。
- ・防災活動としては安否確認を行う必要がある。
- ・ボランティア団体に入るのは、控えめになり自分にはちょっと合わないと思う人もいる。きっかけ作りが大切である。またインセンティブも検討する必要がある。
- ・町会長になったとたんに、補助金申請やふるさと協議会の仕事が押し寄せてくる。全体的な仕事量が多く負担軽減が必要である。土日の会議や副会長と仕事の分担を考えると、昔からの仕事を見直すことも大切である。

④書記所感

世帯数の多い町会等は、協力団と連携をとらないと運営が出来ないことから、すでに積極的に連携する実績を上げている。しかし若い世帯向けの協力団体は無く、今後は子ども向けや単身者向けの行事や事業を担う協力(ボランティア)団体の必要性を感じた。また、新たらしいことを行うためには町会役員に余裕が必要であり、現状ではその余裕は無い。まずは町会等の仕事や役割の見直しが一歩と考える。

2) Bグループ(世帯数：200～800世帯)

①あなたの町会では連携している団体がありますか？

町会の活動を支援代行するボランティア団体が活動している町会は4町会のうち2町会のみで他の2町会はその様な団体を持っていなかった。これからそのような団体を作りたいとの話も出なかった。

- ・十余二緑町町会は298世帯で20名の役員と64名のボランティア団体(事業活動ボランティアグループと命名)で活動を進めていて、そのボランティア団体と役員会との連携に町会長は苦労している。

64名が一つの団体で町会長言うところの別動隊としている。64名は役員経験者で年齢的には若い人達も仕事を持っている人も含めてのグループになっている。

防犯パトロール、ふるさと祭り、餅つき大会、展示会、とほとんどの行事にかかわっている。その団体には町会からの補助金が支給されているが細かい使い方までは説明は無かった。ボランティア団体とは別に各種趣味の会が有るがメンバーの高齢化で活動は限定的なってきた。補助金の支給も無く、ふるさと会館の使用料も負担してもらっている。

回覧、町会費の集金のICT化の実施を考えている。

町会の行事を増やすと自分が役員になった時大変だから行事は増やさない様にと町会員からの意見もある。

- ・布施新田町会は640世帯で役員は4名でボランティア団体に活動してもらっている。ボランティア団体は10名位づつ行事ごとに複数作られている。サロン、見守り、防犯パトロール、登校見守り、等多くの行事にかかわっている。補助金の支給もありスムーズな活動がされている様子が発表された。
- ・戸張町会は280世帯で12名の役員と37名の班長で構成され、ボランティア団体は無い。町会のイベントはふる協に期待と割り切っている状況。祭りも隣の町会の祭りに期待している。
役員の改選は班長会に役員7名の選出を依頼して、会長と他の役員は現会長が決めて

いる。役員も決まらない状況でボランティアの選出まで出来る状況ではない。町会費の集金で郵便局に町会用の振込用紙を作ってもらい町会口座に経費は町会負担で振り込んでもらえるようにした。集金業務の軽減になっている。

- ・塚崎区は 800 世帯で内 87 世帯の旧住民が牛耳って来ているのが実情で今後このグループ間の融和に努力していきたい。ボランティアの募集はしているが結果に結びついていない。高齢化で班長も出来ない班に対して役員が班長の代理をする代理班長制度を導入するとの事。役員の負担増になりそう。

②これから連携するならばどのような活動団体を対象としますか？

- ・布施新田町会は、支えあい活動は町会として運営しているが 54 名居たサポーターが 21 名になったりしているので、今後充実させて軌道に乗せていきたいとの事。

③連携にあたってどのような点が気になりますでしょうか？

各町会の現状の説明が多く、本項目の意見まで至らなかった。

④書記所感

4 町会は夫々特徴的な町会の印象を受けた。行事を増やさない様に縮小しながらも役員、班長の負担軽減を意識している町会と、ボランティア団体を活用しながら行事に色々取り組んでいる町会が印象的だった。その中でも 298 世帯で役員 20 名、ボランティア団体 64 名の組織の町会では役員会 20 名をまとめる苦労と さらに 64 名のボランティア団体との関係にも町会長として苦労している様子であった。

もう一つの町会は 640 世帯で役員 4 名でボランティア団体は 10 名前後の団体が行事毎に複数存在している町会もあり比較的スムーズに運営がされている様に伺え、この二つの町会の違いに興味を覚えた。

個人的な経験からボランティア団体のネーミングについて「・・・ボランティア」といった様にボランティアを付けるのはあまり上手く行った印象が無い。良い雰囲気です役員を退任した方々が半分自主的に町会の青年部とかサポート隊に加入している町会は多々有ると思う。ボランティア団体として町会行事のサポート等をしている事はその方々の労力は役員なり他の人達の仕事の軽減になっていると感じる。その様な団体のお揃いのポロシャツを作るなどの盛り上げ方法は役員会やボランティア団体との会話を通して生まれて来るものと思う。

3) Cグループ(世帯数：200 世帯以下)

①あなたの町会では連携している団体がありますか？

- ・増尾東映第二自治会は、防犯・防災連携(エルソナ会)がある。町会長経験者中心で心強い。防災協力の内容は、定期的に会合で情報提供してもらう。防災の案内は町会でやるが、実践はエルソナ会がやってくれる。シニアサロンも有効に活動してくれる。
- ・ふる協といきいき NW の違いは、布施新町限定であること。あくまでも自分の健康維持や交流を深めるためのもの。
- ・役員の高齢化が深刻。町会の仕事が軽減化されるのか？町会の仕事をバックアップしてくれるボランティアがあるとありがたい。町会負荷軽減活動は難しい。町会の仕事を整理、軽減する事を考えるのも重要。子供さんを引っ張り出すことも重要。

②これから連携するならばどのような活動団体を対象としますか？

- ・ 防災訓練、芋煮づくりが好きな方がいる。会長経験者を集って組織化も検討したい。
- ・ シニアサロンに資金提供もいいと思った。
- ・ ホームページは興味がある。11月22日に ICT 実践編でいかに簡単にホームページが出来るかを紹介する。ふる協参画も有効。
- ・ 自治会の仕事をどこまで削減していいのか疑問がある(悩む)。役員に仕事をシェアしてもらうこともあるが、役所からの依頼を少なくすれば助かる。